

アルゼンチンアリの特徴と防除について

南米原産のアルゼンチンアリは、平成5年に日本で初めて廿日市市で発見されてから、広島県や山口県等のいくつかの市町において、新たな生息が確認されています。

生息地域は、1年に数十～百メートル程度広がっていきませんが、飛ぶことによって離れた地域に広がっていくことはありません。物や人の移動に伴って、今までにいなかった地域に広がっていきます。

アルゼンチンアリには毒や針がありませんが、繁殖力が強く、コンクリート壁の継ぎ目、石の下、鉢植えの下などあらゆる隙間に巣を作ります。

また、屋内に侵入してくることも多く、不快な感じを受けることもあり、大量のアリが発生すれば、日常生活に不便をきたすこともあります。

働きアリの大きさは2.5～3.0mm程度で比較的小さく、茶色がかったスマートな体に長い触覚や足をもっています。

動きは大変すばやく、えさを採るときは多数の働きアリが行列になって行動します。

アルゼンチンアリは普通のアリと同じように、市販の殺虫剤で駆除することができます。

目的に応じて殺虫剤を上手に組み合わせることで、被害を減らすことも可能です。



アルゼンチンアリ(働きアリ)



アルゼンチンアリの行列

上段写真はアルゼンチンアリ.jpより

【殺虫剤の使用例】

スプレー型殺虫剤



隙間に潜むアリや、侵入防止に

コンクリート構造物の亀裂、建物の壁の隙間などに潜むアリの巣に直接吹き込むことで効果があります。また、ドアや窓枠に吹き付けることで、これらの隙間からの侵入防止に効果があります。ノズルを奥まで差し込み、十分内部にいきわたるように吹き込みます。

ベイト(餌)型殺虫剤



巣の丸ごとの退治に(1)

アリの巣穴周囲や行列付近に置くことで、効果があります。これは、働きアリがえさを巣に持ち帰り、仲間に分け与える習性を利用したもので、巣全体に作用し、アリの巣を丸ごと駆除したいとき等に使用します。

液体型殺虫剤(遅効性)



巣の丸ごとの退治に(2)

アリの行列に散布したり、巣穴に直接流し込むことで効果があります。これは、アリがお互いに体を舂め合う性質(グルーミング)を利用したもので、直接殺虫剤に触れたアリから別のアリに殺虫成分が伝わる連鎖効果で、巣の奥に潜むアリ全体に効果があります。

粉末型殺虫剤



建物等への侵入防止に

建物の中へ侵入しようとするアリをブロックしたいときに効果があります。建物の壁際へ隙間の無いよう、建物を取り囲むように、少し盛り上がるくらい帯状に散布してください。雨で流された場合には補充しましょう。

(殺虫剤の写真はいずれも廿日市市ホームページより)

(※目の前のアリを退治するだけでなく、巣ごと退治することが、大切です。殺虫剤を使用の際は、定めてある用法をよく読んで、正しい使い方駆除しましょう。)

【生息しにくい環境】

殺虫剤を使用する以外にも、次の3つのポイントを心がけて行うことで、アルゼンチンアリが生息しにくくなり、数を減らしたり、家屋への侵入防止につながります。

ポイント1 巣を作らせない

- ① 植木鉢・プランターなどを地面に直接置かず台や棚の上に置く。
- ② ゴムマット、コンクリートブロックなど巣の原因になりそうな物を地面に置かない。
- ③ 剪定・除草作業により生じた木や草は速やかに片づける。
- ④ シーリング材などで、巣穴となるような隙間を埋める。

ポイント2 侵入させない

- ① 屋内でアリを発見したら、行列の侵入口を見つけ、シーリング材などで埋める。(侵入口にスプレー式殺虫剤を噴いておくと、なお効果があります。)
- ② 室内で迷いアリ(偵察アリ)を発見したらすぐ退治する。(放っておくと仲間のアリを連れてきます。)

ポイント3 餌を与えない

- ① 室内に長い時間食べ物を放置しない
- ② テーブルの下や流し台やレンジの周りの食べ物かすなどは、こまめに掃除をする。
- ③ 食べ物は密封できる袋や容器に入れて保管する。(冷蔵庫に入れるとよりいっそう安心です。)
- ④ 残飯などは密閉してから捨てる。

【拡大の防止】

アルゼンチンアリは人や物の移動に伴って、今までいなかった地域に分布を拡大する恐れがありますので、**巣を含む可能性のある植木や資材等を移動させる場合は、必ずアリの有無を確認**しましょう。